

教材名	きんのおのぎんのおの	教科書	学研、東書・光文・教出と日文（2年）	学年	1年
内容項目	正直、誠実	うそをついたりごまかしたりしないで、正直にのびのび生活すること			
内容項目のとらえ方 (子どもの実態を踏まえ)	子どもたちにも、いろいろな「欲」がある。目の前に欲しい物を出されれば手に入れたいと思うのは当然の気持ちだろう。それも「正直な心」だと受けとめ一人ひとりの感情を出しあうようにしたい。また子どもたちはうそをつくことはいけないと知っている。しかしその時の状況や葛藤の中で誰もがうそをついたり、ごまかしたりすることがあることを前提に共感的に話を進めていきたい。				

授業の展開

子どもたちの活動	指導上の留意点
<p>1. 本文の前半を読む。</p> <p>2. 次の発問について自分ならどう思うかを考える。 「神様に金のおのや銀のおのを見せられたら、自分ならどう思いますか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいだなあ。いいなあ。 ・じぶんのではないが、ほしいなあ。 ・売ったらお金持ちになれるかも。 ・自分のではないからいらない。 ・金や銀のおのでは役に立たない。 ・うそはつきたくない。 </div> <p>3. 本文の後半を読み、「わたしのでは、ありません」ときっぱりと言った木こりの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うそをつきたくない。 ・うそをついてもばれてしまうかも知れない。 ・自分のおのは鉄のおので、金や銀では木は切れず仕事にならない。 </div> <p>4. 正直に言えたときやうそをついてしまったときの気持ちを出しあう。</p> <p>例：怒られるのではないかと思い、正直に言えなかった時、しだくなくにごまかしてしまった時、正直に言ったらほめられた時の気持ちなど</p>	<p>自由な発想をさせるために、木こりが神様に金のおのや銀のおのを見せられた場面までを読ませる。</p> <p>吹き出しのついたプリントなどを用意したり、手作りのおのを見せたりして、場面が理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの考えたことは、すべて正直な気持ちであり、正直な気持ちはもってよいことを伝える。 ・正直に言った木こりの気持ちをおさえる。 ・だれにでもうそをついたり、ごまかしたりしたことがあることを前提に共感的に意見交換する。 ・うそをついたときの気持ちを話すことは簡単ではない。普段から安心して発言できる学級の雰囲気づくりが必要となる。 ・オープンエンドで終わる。